

# ○小中一貫教育を推進するための教員研修

## 1. 小中一貫教育の導入状況

- 実施市町村数：全19市町のうち2市（4市町は導入を検討）
- 小中一貫校設置状況：併設型小・中学校7件

（市町村数・学校数等は平成30年4月1日現在）

## 2. 小中一貫教育の導入の背景・目的

- 小中一貫教育を導入した背景
  - ・本県では、全ての小・中学校でコミュニティ・スクールを導入し、社会総がかりで小中9年間の子供たちの学びや育ちを見守り支援する「やまぐち型地域連携教育」を推進している。共同の活動等は充実しているが、9年間の学びをつなぐ教育課程の実施に課題があることから、今後さらに小中一貫教育の視点から各学校間のつながりを意識していく必要がある。
- 「小中一貫教育推進事業」の目的
  - ・モデル地域・学校においては、小中間の滑らかな接続を目指し、コミュニティ・スクールの仕組みを生かして、保護者や地域の方も交えた合同研修会や小中合同学校運営協議会等に計画的・継続的に取り組む。県教委においては、モデル地域・学校に対して指導助言を行い、研究の質を高めるとともに成果を県内外に発信することで、小中連携・一貫教育の充実に資する。

## 3. 本調査研究において取り組んだ内容

### 【山口県における取組内容】

#### ● 小中一貫教育を推進するための教員研修について

本県においては、年二回、全てのモデル地域及び協力校の校長または小中一貫教育担当教員を集めて「小中一貫教育推進協議会」と、毎年一回モデル地域の一つを中心とした「小中一貫教育実践発表会を」実施することにより、県内にその取組の成果を周知し、教職員への理解と意識向上に努め、小中一貫教育の推進を図ってきた。

#### 【小中一貫教育推進協議会】

- ・1, 2年次は、モデル地域及び協力校の小中一貫教育への理解を深めるために、国立教育政策研究所、文部科学省、大学等の指導者を招聘し、小中一貫教育の仕組みや先進校の取組等についての講演会を実施し、併せて協力校同士の情報交換を行った。
- ・3年次は、モデル地域以外の市町教委担当者と来年度から推進する校長計13人が参加し、各モデル地域の取組事例の発表を行うことにより好事例の共有を行うとともに、全県への周知を図った。また、様々な地域からの参加者によって構成されたグループを編成して協議を行うことにより、推進していく上での課題や成果について多様な考えを共有することができた。

#### 【小中一貫教育実践発表会】

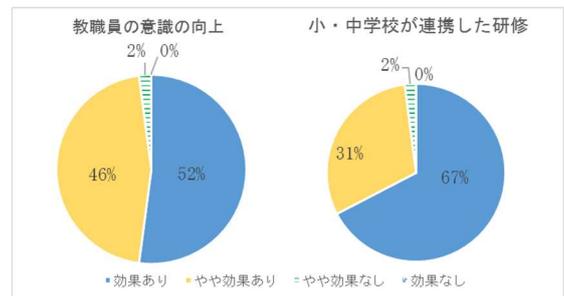
- ・1年次は、萩地域の施設一体型の学校を中心に、授業公開、取組説明、学識経験者による指導助言を行った。同じ校舎内に学校がある利点を生かして、T・T指導を行うなどの公開授業から、小・中学校の教員が関わり、きめ細かな指導が充実することについて周知することができた。  
（対象：モデル校関係者、萩市学校関係者、市町教委、大学関係者等、参加者：107人）
- ・2年次は、周南地域の隣接型の学校を中心に、授業公開、協力校の取組説明、生徒の発表、学識経験者による指導助言を行った。地域の学習を核としてカリキュラムを編成し、9年間を通して郷土を愛する心を育むことに効果があることを周知することができた。  
（対象：モデル校関係者、周南市学校関係者、市町教委、大学関係者等、参加者：153人）
- ・3年次は、和木・岩国地域が協力し、和木地域の隣接型の学校を中心に授業公開、各協力校の取組説明、学識経験者による講演を行った。地域や学校の実情に応じた小中一貫教育の多様な形態について紹介することを通して、県が推進する小中一貫教育の方向性についての理解が進んだ。  
（対象：モデル校関係者、和木町・岩国市学校関係者、市町教委、大学関係者等、参加者：295人）

#### 【研修会等の実施による教職員の意識】

1年次の研修会のアンケート、協議内容では、記述の中に、教職員の小中一貫教育に対する意識が低いこと、合同で研修する機会が少ないなどの内容が多く見られ、課題として捉えてきた。

3年次に研修会で行ったアンケート調査では、右図のように課題があった項目に大きな改善が見られた。

山口県では、県が主催する研修会以外にもモデル地域が積極的に研修会を実施し、多くの参加者にその成果やよさを周知してきた。これらの取組により全教職員が関わる組織体制と意識の向上につながっている。



## 4. 本調査研究において取り組んだ内容

### 【本調査研究に協力した市町村における主な取組内容】

#### 岩国市

##### ● 域内の学校における小中一貫教育を推進するための方針等の策定

- ・2020年度から、全ての中学校区が同じ水準で様々なタイプの小中一貫教育に取り組むことができるよう、小中一貫教育基本計画を策定し、推進の方針や計画を示した。また、各学校が取り組む際の具体的なイメージをもつことができるよう、ガイドライン、Q&A集、リーフレットを作成し、学校への周知を図った。

#### 和木町

##### ● 小中一貫教育を推進するための体制の構築等

- ・コミュニティ・スクール委員会を中心として、園小中が連携して取り組む活動の課題分析と目標設定を行い、教職員研修会において、具体的な活動計画を立て、実際の活動につなげた。全ての教員が関わる体制を構築し、園小中をつなぐカリキュラムを作成したことにより、学校間の学びをつなぐという意識が高まり、校種間の円滑な接続につながった。

#### 周南市

##### ● 小中一貫教育を推進するための教育課程・指導方法上の取組

- ・学習に関する課題の改善に向け、9年間の系統的な指導計画を作成するための「カリキュラム部会」家庭学習を充実させるための「ノート部会」などの4つの部会を編成し、「小中相互の授業公開、研究協議」「部会別協議」「模擬授業」などを実施した。全ての教職員が関わり、毎年、課題から改善策を考えることにより、教職員同士のつながりの強化や、子供の学力向上へとつながる取組となった。

#### 宇部市

##### ● 小中一貫教育を推進するための情報の収集・提供、広報・啓発

- ・2020年度から、全ての中学校区における小中一貫教育の導入に向けて、モデル中学校区において研究してきた成果を、小中一貫教育推進協議会や校長研修会、教頭研修会、市教委主催の研修会などを活用して共有する場を設定した。また、全ての教職員を対象とした小中一貫教育研修会を開催して、教職員の意識の向上を図った。

#### 山陽小野田市

##### ● 小中一貫教育を推進するための組織・マネジメント上の取組

- ・小・中学校の全ての教職員で、めざす子供像を協議して決定し、小中一貫教育カリキュラムを作成することで、教員同士の連帯感を高めた。また、学校同士の連携をスムーズにするため、一部の授業時間の開始時間を揃え、「乗り入れ授業」が行いやすい工夫をしている。中学において、小学校の様子を知る教員が支援に入ることで、より個に応じた指導ができた。

#### 萩市

##### ● 小中一貫教育を推進するための評価方法、成果・課題の把握

- ・乗り入れ授業について、教職員を対象にしたアンケートを実施することにより、成果と課題を把握し、学校運営協議会の中で共有し、取組に生かしている。また、小中一貫教育校の研究発表会の中でカリキュラム編成についての成果を地域全体に周知した。さらに、参加者アンケートを活用して、成果と課題についての分析を行った。

## 5. 今後の取組

##### ● 「やまぐち型地域連携教育」を基盤とした小中一貫教育の推進

- ・コミュニティ・スクールを核とした「やまぐち型地域連携教育」の中で、地域や学校の実情に応じた小中一貫教育の取組を推進する。また、小中一貫教育校ではなくても、小中一貫教育の目的や具体的な取組の手法を取り入れた小中連携教育の実現を目指した取組を推進する。

##### ● 小中一貫教育の普及・啓発

- ・3年間の研究の成果としてモデル地域、協力校の実践をまとめた事例集を全ての小・中学校に配付するとともに、それを活用して、今後、小中一貫教育に取り組む市町や学校を支援していく。

## ○域内の学校における小中一貫教育を推進するための方針等の策定

### 1. 市町村の概要

- 人口：135,308人（平成31年1月1日現在）
- [小学校] 学校数：32校，児童数6,598人 [中学校] 学校数：14校，生徒数3,231人  
（学校数・児童生徒数は平成30年5月1日現在）

### 2. 小中一貫教育の導入の背景・目的

- 小中一貫教育を導入した背景
  - ・本市では、これまで小・中学校が連携して教育活動を展開する「小中連携教育」を行ってきたが、交流等の連携にとどまるという課題が見られた。これをさらに進化・充実させ、小・中学校の義務教育9年間を通して、継続的で一貫性のある教育を行うことによって、児童生徒一人一人の個性を伸ばし、夢の実現につなげていきたいと考えている。
- 「小中一貫教育推進事業」の目的
  - ・義務教育9年間を通して、系統的・継続的な学習指導及び生徒指導を行うことで、確かな学力、健やかな体、豊かな心の育成を図る。
  - ・「小中ギャップ」や「10歳の壁」など、学校種の違いや発達段階で生じる子供たちの不安や負担を軽減し、小学校から中学校への円滑な接続を図る。

### 3. 本調査研究において取り組んだ内容

- 域内の学校における小中一貫教育を推進するための方針等の策定について  
【岩国市小中一貫教育基本計画，ガイドライン等の作成】
  - ・岩国市小中一貫教育基本計画を策定して推進計画や推進方針を示すとともに、ガイドライン、Q&A集、リーフレットを作成し、岩国市ホームページで公開した。また、岩国市校務支援システムの掲示板に掲載して、各学校が、校内研修や中学校区研修会での活用、学校運営協議会委員や保護者等への周知に活用できるようにした。
- (1) 小中一貫教育基本計画，ガイドライン
  - ・小中一貫教育基本方針，施設形態，小中一貫教育導入スケジュール等を示している。特に、カリキュラムの編成については、中学校区で学校・家庭・地域が一体となり、学校運営協議会の組織（専門部会等）を生かした編成を推奨している。具体的には、①「目指す子供像」の明確化②「重点目標」の明確化③育てたい力の設定④「重点化を図る教科・領域」の設定⑤「授業改善の視点」をふまえた年間指導計画の作成という流れを説明し、カリキュラムの作成支援を行っている。
- (2) Q&A集，リーフレット
  - ・「岩国市がこれまで行ってきた小中連携教育と小中一貫教育はどこが違うのか。」「なぜ、小中一貫教育が必要なのか。」といった疑問を分かりやすく説明したQ&A集を作成した。Q&A集は、取組の中での新たな問い合わせに対応しながら、教育委員会が毎年、ホームページ等で更新している。また、リーフレットには、小中一貫教育の取組を、岩国市の錦帯橋をイメージした図で示し、「5つのつながり」を分かりやすい形にして説明している。



#### 5つのつながりを意識した取組



#### 【成果と課題】

- ・成果としては、各中学校区において、ガイドライン等を活用しながら「目指す子供像」と教育目標を見直し、9年間の系統的な指導に向けたカリキュラム作成が進んでいる。中学校区での教育目標の設定については、100%の達成率であった。一方で課題としては、取組の改善を進めていくためには、学校評価等を活用して、常に各学校の成果と課題を明確にしていく必要がある。

### 4. 今後の取組

- 各中学校区での実践の評価・改善
  - ・各中学校区で学校や地域の実態に合わせた取組を支援するとともに、取組の評価を行い、改善につなげていく必要がある。そのために、推進委員会等で域内の取組の好事例を紹介したり、課題について協議したりしながら、市内全体の小中一貫教育の取組の充実を図っていく。このことにより、子供たちのよりよい成長のために、各中学校区が特色を生かし、人や学びのつながりをつくりながら、学校・家庭・地域が一体となった共同体を確立する。

# ○小中一貫教育における体制の構築等

## 1. 市町村の概要

- 人口：6,438人（平成30年12月31日現在）
- [小学校] 学校数：1校，児童数 429人 [中学校] 学校数：1校，生徒数 183人  
(学校数・児童生徒数は平成30年5月1日現在)

## 2. 小中一貫教育の導入の背景・目的

- 小中一貫教育を導入した背景
  - ・本町では、1園1小1中の規模でありながら、園小中の教職員が、「お互いの教育活動や教育内容について知らないことが多い」ということから、教育の系統性が図りにくいという課題があった。小中一貫教育を導入することにより、「町ぐるみ『和木学園』」構想の推進を図り、生まれてからお墓に入るまでの連続した学びを、町ぐるみで進めていく活動を展開する。
- 「小中一貫教育推進事業」の目的
  - ・和木っ子の学力の向上  
小・中学校の教員が校種による学習内容の「違い」や「つながり」を知り、共有し、見通すことで、和木っ子へのより効果的なアプローチを行う。
  - ・和木っ子の社会性の育成  
「小1プロブレム」「中1ギャップ」を知り、共有し、見通すことで、段差を滑らかにし、さらに段差を乗り越えるためのたくましさを磨く。

## 3. 本調査研究において取り組んだ内容

### ● 小中一貫教育における体制の構築等について

【和木町コミュニティ・スクール委員会を中心とした取組】

- ・コミュニティ・スクール委員会を中心として、園小中が連携して取り組む活動の課題分析と目標設定を行い、教職員研修会において、具体的な活動計画を立て、実際の活動につなげた。学力向上部会、心の教育部会、体力向上部会の3部会による研修を進める中で、共通して取り組める活動を継続的に実施し、検証、改善を行っている。これまでに、小中合同の「あいさつ運動」、園小中に取り組む「おむすび弁当の日」の実施、「和木っ子授業規律の徹底」など、内容の共通化と継続性を考えながら、その活動の深化、充実を図っている。

【カリキュラムの接続】

- ・部会では、英語教育、キャリア教育について、園小中一貫指導計画の作成と接続期におけるカリキュラム作成を行った。まず、仮の指導計画を作成することから始め、検証、改善を行いながら、完成させていった。

【成果と課題】

- ・成果としては、小中一貫教育を推進する組織の中で、園小中をつなぐカリキュラムを作成したことにより、教職員の学校間の学びをつなぐという意識が高まり、授業改善につながっている。課題としては、園小中連携における取組として、英語教育、キャリア教育、ICT教育、教職員の協働の4点での連携を充実させていくことを目標としているが、和木町コミュニティ・スクール委員会を中心とした体制の中に明確な位置付けがなく、具体的な取組につながっていないことが挙げられる。

## 4. 今後の取組

### ● ふるさと和木に誇りと愛着を持ち、和木の将来を担う人づくりの推進

- ・英語教育、キャリア教育、ICT教育、教職員の協働の4点について、和木町コミュニティ・スクール委員会を中心とした取組体制の中の3つの部会に明確に位置付け、取組を推進していく。また、カリキュラムの接続においては、異校種間において実際の授業を参観した後に15年間を貫いて行える重点目標を立てるようになる。
- ・和木町コミュニティ・スクールの仕組みを活用し、地域の方々の参加を促し、町ぐるみで子供を育てる意識を浸透させていく。特に「キャリア教育」の充実においては、地域人材の積極的な参加を促す仕組みを整えるとともに、各園校に共通する活動の連続性を意識した取組をさらに進めていく。



# ○小中一貫教育を推進するための教育課程・指導方法上の取組

## 1. 市町村の概要

- 人口：143,973人（平成30年11月30日現在）
- [小学校] 学校数：27校，児童数 7,208人 [中学校] 学校数：14校，生徒数 3,478人  
(学校数・児童生徒数は平成30年5月1日現在)

## 2. 小中一貫教育の導入の背景・目的

- 小中一貫教育を導入した背景
  - ・主体的に課題に取り組む力や他者と関わる力の育成，不登校児童生徒への対応など，各学校が抱える課題を積極的に改善していくために小・中学校と地域がつながり，9年間一貫した子供の学びを保障する必要がある。
- 「小中一貫教育推進事業」の目的
  - ・これまで小中連携教育として進めてきた取組をさらに深化させ，9年間を通じた系統的な教育の在り方を研究し，その成果や課題を周南市全域に広める。

## 3. 本調査研究において取り組んだ内容

- 小中一貫教育を推進するための教育課程・指導方法上の取組について  
鹿野小学校・鹿野中学校をモデル校区の一つに指定して教育課程・指導方法上の取組を中心に研究した。
- 【1年目の取組】
  - ・コミュニケーション能力の育成や学習習慣の定着を目指して，以下の3点を「学びの礎」とし，研究の柱として取り組んだ。
    - ①9年間の系統的な指導計画づくり
    - ②説明し合うことを核とした学習指導の工夫
    - ③授業と家庭学習をつなぐノート指導の工夫（「鹿野っ子ノート」の充実した活用に向けて）
  - ・研究を進めていく上で，「カリキュラム部会」「授業研究部会」「鹿野っ子ノート部会」「データ部会」の四つの部会を編成し，小中合同の研修会を月1回開催した。研修会の主な内容としては，「小中相互の授業公開，研究協議」「部会別協議」「講師を招いての講話」「模擬授業」等である。
- 【2年目の取組】
  - ・1年目に作成した学習カリキュラムをより一層授業づくりに生かすため，つまずきやすい単元に着目し，5教科カリキュラムの改善や学習スキル一覧表の作成・活用による説明し合う活動の充実，鹿野っ子ノート活用の充実に力を入れた。中学校から小学校への乗り入れ授業や小・中学校教職員によるチームティーチングの授業，合同研修会を計画的に行うことで・小中学校教職員のつながりが強化され，小中一体となった取組が見られた。
- 【3年目の取組】
  - ・教科の指導に重点を置いた1，2年目の取組から，各教科で培った力を教科横断的に働かせ，地域人材や地域資源を活用しながら学びを深めていくために，総合的な学習の時間に重点を置くこととした。全体計画では「目指す児童・生徒像」「身に付けさせたい資質・能力」「評価規準」など項目の一部を小・中学校で統一化した。
  - ・地域の人材や教育資源を有効に活用するため「地域と共にある9年間の学びカリキュラム」を作成し，小・中学校と地域が一体となって9年間の学びを深めている。
  - ・3年目には，周南市教育研究発表会で取組について発表し，成果や課題について市内全域に情報発信した。
- 【3年間の成果と課題】
  - ・中学校教員が乗り入れ授業を定期的に行った6年生においては，1時間以上家庭学習をすると答えた児童が5年生時に比べて30%以上増加するなど，学習習慣の定着が見られた。また，全国学力・学習状況調査においても国や県の平均を上回る学年が増え，成果が感じられる。一方で，「つまずきやすい単元・内容」をさらに小・中学校で共有し，一貫性のある取組による改善を充実させていく必要がある。



＜授業での，地域の方と児童の話し合い＞

## 4. 今後の取組

- 小中一貫した取組の推進及び小中一貫校設置の検討委員会の開催
  - ・各中学校区において，小中で連携した取組を深化・充実させ，一貫した取組を推進する。周南市小中一貫教育推進事業での3年間の研究による小中一貫教育の有効性や課題をもとに小中一貫校の設置について検討する。

# ○小中一貫教育を推進するための情報の収集・提供，広報・啓発

## 1. 市町村の概要

- 人口：165,962人（平成30年5月1日現在）
- [小学校] 学校数：24校，児童数8,078人 [中学校] 学校数：12校，生徒数3,846人  
(学校数・児童生徒数は平成30年5月1日現在)

## 2. 小中一貫教育の導入の背景・目的

- 小中一貫教育を導入した背景
  - ・本市の課題である，児童生徒の学力の定着や生徒指導上の諸問題（不登校・いじめ等）の未然防止と早期解決を目指すとともに，新学習指導要領への対応や中1ギャップの解消等への取組の強化を図るため，小中一貫教育の導入に至った。
- 「小中一貫教育推進事業」の目的
  - ・令和2年度からの小中一貫教育の導入に向けて，連携する小・中学校でめざす子供像や学校教育目標の一元化を図り，9年間の教育課程の編成や系統的な学習指導・生活指導の在り方の作成及び，コミュニティ・スクールの仕組みを活用した地域と連携した教育環境づくりの研究等を実施する。

## 3. 本調査研究において取り組んだ内容

- 小中一貫教育を推進するための情報の収集・提供，広報・啓発について  
【宇部市小中一貫教育推進協議会の取組】
  - ・令和2年度からの市内全小・中学校による小中一貫教育を実施するため，調査・研究及び準備を行う組織として「宇部市小中一貫教育推進協議会」を設置した。本協議会では，各学校の具体的な取組を「宇部市小中一貫教育ガイドライン」にまとめるとともに，保護者や地域等への周知・啓発用にリーフレットを作成した。各中学校区において，ガイドラインの示す具体的な取組を進めた結果，平成30年度中に全中学校区（12中学校区）において，「目指す子供像」の一元化を図ることができた。また，その他の成果として，学校教育目標の見直し，9年間を見通した教育課程の作成，小中相互乗り入れ授業計画の作成，系統的・段階的な学習規律・生徒指導事項の作成について，8中学校区において作業が完了した。
- 【モデル校による研究及び先行実施等の成果の共有】
  - ・平成29年度に2中学校区を指定し，平成30年度に2中学校区を追加指定した。その中で様々な取組の研究及び先行事例の創出を行った。例えば，学校運営協議会の統合や児童生徒の交流行事の実施，小学生の部活動への参加，小中合同授業研究会の開催などに取り組み，その成果や課題等を校長研修会や研究会等で共有化を図った。

|        | 中学校区    | 学校形態      | 主な取組内容                        |
|--------|---------|-----------|-------------------------------|
| 平成29年度 | 桃山中学校区  | 施設分離型2小1中 | 学び合いのある授業づくり、児童生徒の交流活動        |
|        | 川上中学校区  | 施設隣接型1小1中 | 小中学校運営委員会の統合、特色あるカリキュラムの作成    |
| 平成30年度 | 東岐波中学校区 | 施設分離型1小1中 | 学力向上に向けた小中連携の研究               |
|        | 楠中学校区   | 施設分離型4小1中 | 校舎が遠隔の場合の工夫、伝統文化教育を柱とした特色ある取組 |



宇部市小中一貫教育推進協議会



校長研修会 中学校区での協議



モデル校による成果発表



小中合同学校運営協議会  
「めざす子供像」を協議



小中合同授業研究会



宇部市小中一貫教育推進協議会

### 【宇部市小中一貫教育研修会の開催】

- ・市内の全教職員を対象に研修会を開催した。その中では，モデル校による実践事例の紹介，文部科学省担当者による小中一貫教育の現状についての講演を行い，全教職員にこの仕組みの意識化を図った。アンケートでは，参加者の90%が小中一貫教育の意義や可能性についての理解が深まったと回答した。

## 4. 今後の取組

- 取組の検証・改善システムの構築
  - ・平成31年度以降は，各中学校区に「中学校区小中一貫教育推進協議会」を設置し，ランドデザインを作成するとともに，山口大学教育学研究科教職大学院と連携して，取組の進行管理及び検証・改善を行うこととしている。

# ○小中一貫教育を推進するための組織・マネジメント上の取組

## 1. 市町村の概要

- 人口：63,380人（平成30年4月末日現在）
- [小学校] 学校数：12校，児童数 3,273人 [中学校] 学校数：6校，生徒数 1,597人  
（学校数・児童生徒数は平成30年5月1日現在）

## 2. 小中一貫教育の導入の背景・目的

- 小中一貫教育を導入した背景
  - ・小学校と中学校で学習する内容や方法がうまくつながっていないことや、小学校の教員間で共有されていた個々の子どもに合った指導法などが引き継がれないこと等により、中学校で勉強を難しく感じる子どもが少なくなかった。また、少人数の学級を中心とした狭い人間関係の中で、自己肯定感が育ちにくい学校もあることから、年齢の離れた児童生徒がふれあう機会を通して、自分の成長や将来像を感じる機会を増やし、自己肯定感を高めるといったキャリア教育の視点が必要だった。
- 「小中一貫教育推進事業」の目的
  - ・厚陽小中学校は小中一貫教育校としての体制を整備し、小中一貫教育の内容と質を高め、学力向上や生徒指導面における小中一貫教育のよさを市内各学校に発信していく。埴生小中学校は、地域連携を核とする埴生の地域性を生かした小中一貫教育校の準備を進める。

## 3. 本調査研究において取り組んだ内容

- 小中一貫教育を推進するための組織・マネジメント上の取組について

### 【研修組織の一元化】

- ・全ての小・中学校教員による教科ごとのチームを作り、小中一貫カリキュラムを作成し、一体感を高めた。各教科の小中共通の目標をつくり、どういった子供を育てていくのかを話し合う過程を通して、小・中学校教員の連帯感が高まった。

### ⑦小中の連携はできているか：

小学校 69%→90%，中学校 85%→90%（教員）

### 【乗り入れ授業の計画的実施】

- ・小学校5・6年生に、中学校教員による乗り入れ授業を行うために、小・中学校の3校時と5校時の開始時刻を同一時刻にし、日課表に位置付けている。また、中学校から小学校への一方的な乗り入れ授業にならないように、小学校教員が中学校特別支援学級へT2や個別対応で授業に入るようにしている。小学校の時から生徒のことを知る教員が支援に入ることで、より個に応じた指導ができた。

### ⑦一人ひとりを大切にしたい、きめ細やかな指導に取り組んでいる：

小学校 84%→93%，中学校 75%→78%（保護者）

### 【教頭によるコーディネート】

- ・小学校と中学校の教頭が、お互いの業務を一元化し、効率化を図ったことで、小学校と中学校の窓口の役割を担っている。教頭が内容を把握し、全体の動きをコーディネートすることで、状況を一括して把握できる体制をとっている。

### 【成果と課題】

- ・小中一貫カリキュラムが整い、小学校と中学校の教員の連携が進んだ。また、一人ひとりの児童生徒を大切にしたい細やかな指導が広がることで、児童生徒も毎日の授業や生活に充実感を感じている。小・中学校合同行事も多く行われているが、そのスムーズな運営には小・中学校教員による活動内容の細かな検討が必要であり、その打合せ時間の確保が課題の一つである。

### ⑦授業は分かりやすく楽しい：小学校 84%→93%，中学校 84%→90%（児童生徒）

自分は学校に来ることが楽しい：小学校 84%→92%，中学校 84%→85%（児童生徒）

※⑦=学校評価アンケート：平成29年度→平成30年度（アンケート対象）

| 小 学 校       |         | 中 学 校    |             |
|-------------|---------|----------|-------------|
| ～8:15       | 朝読書     | 朝読書      | 8:05～8:15   |
| 8:15～8:25   | 朝の会     | 朝の会      | 8:15～8:20   |
| 8:25～8:40   | スキルトタイム | モジュールタイム | 8:20～8:30   |
| 8:40～8:45   | 授業準備    |          |             |
| 8:45～9:30   | 1校時     | 1校時      | 8:40～9:30   |
| 9:35～10:20  | 2校時     | 2校時      | 9:40～10:30  |
| 10:20～10:35 | 中休み     |          |             |
| 10:40～11:25 | 3校時     | 3校時      | 10:40～11:30 |
| 11:30～12:15 | 4校時     | 4校時      | 11:40～12:30 |
| 12:15～12:55 | 給食      | 給食       | 12:35～13:05 |
| 12:55～13:35 | 昼休み     | 昼休み      | 13:05～13:35 |
| 13:40～13:55 | そらじ     |          | 13:40～13:55 |
| 14:05～14:50 | 5校時     | 5校時      | 14:05～14:55 |
| 14:55～15:40 | 6校時     | 6校時      | 15:05～15:55 |

## 4. 今後の取組

- 小中一貫校における小中一貫教育の充実と連携校における小中一貫教育の導入
  - ・厚陽小中学校は小中一貫カリキュラムの改善や新しい教育課程に合わせた修正を行っていく。埴生小中学校は、2020年度の小中一貫教育開始に向けて小中一貫カリキュラムを作成する。2校以外の市内の各学校では、厚陽小中学校の小中一貫カリキュラムを参考にして、教科の小中連携カリキュラムの作成に取り組んでいく。

## 小中一貫教育を推進するための評価方法，成果・課題の把握

### 1. 市町村の概要

- 人口：47,625人（平成30年12月31日現在）
- [小学校] 学校数：19校，児童数1,892人 [中学校] 学校数：14校，生徒数993人  
(学校数・児童生徒数は平成30年5月1日現在)

### 2. 小中一貫教育の導入の背景・目的

- 小中一貫教育を導入した背景
  - ・本市には、島嶼部の学校など小中併設の校舎を有する学校があり、地域の実態に応じて小中の結び付きが大変強い教育活動を実践してきた。本市の学校教育を一層深化・充実させていくためには、この小中連携教育は切り離して考えることのできない課題となっている。
  - ・今まで進めてきた小中連携の取組をさらに発展させ、福栄地域をモデル地域として小中一貫教育を進めることはできないか、検討を進めた。平成28年3月に萩市教育委員会規則によって、福栄小中学校を小中一貫教育校として定めた。
- 「小中一貫教育推進事業」の目的
  - ・萩市立福栄小学校・中学校を教育委員会規則によって「中学校併設型小学校」「小学校併設型中学校」（小中一貫教育校）として指定するとともに、平成28年度から3か年、一貫教育校のモデル校として定め、研究実践を積み重ねる。その研究実践を検証するとともに、成果や課題を把握し、萩市にある小中併設型の学校8校を3か年で、その地域の実態に応じた小中一貫教育校として指定していくことをねらいとする。

### 3. 本調査研究において取り組んだ内容

- 小中一貫教育を推進するための評価の方法，成果・課題の把握について  
本市モデル校の萩市立福栄小中学校では、「連続性（9年間を通して取組が途切れない）」「系統性（9年間を通してのつながり・道筋が明確）」「一貫性（9年間を通して軸がぶれない）」という3つのキーワードをもとに、小中一貫教育に取り組んでいる。福栄小中学校における小中一貫教育の成果と課題を把握するための主な方法は、以下のとおりである。
  - 【教職員を対象とした，中学部教員による乗り入れ授業に関するアンケートの実施】
    - ・「学習内容の一貫性」，「学力の一貫性」，「学び方の一貫性」，「学習規律の一貫性」の観点から成果と課題を検証する。それを小中一貫教育推進プロジェクト委員会で協議し，学校運営協議会にて結果を共有し，委員の意見を次の取組に生かす。
  - 【小中一貫教育推進プロジェクト委員会の取組】
    - ・小中一貫教育の具体的な取組の推進に向けての共通理解や推進する上で生じた改善点への対応を図ることを目的とし，分掌部会，教科部会での取組，学校行事，学習面について協議を行った。
  - 【学校評価等の活用】
    - ・児童生徒，保護者，教職員を対象とした学校評価に，小中一貫教育の項目を入れ，その結果を学校運営協議会において共有した。また，3年間にわたる研究の成果と課題を明らかにするため，児童生徒，保護者，教職員，学校運営協議会委員を対象に「学習と心のアンケート」を実施した。

「学習と心のアンケート」では，「共に学ぶことが児童生徒の成長につながっている」という項目について，児童生徒の7割以上が肯定的な意見であった。また，小中一貫教育の「楽しさ」について肯定的に捉えている児童生徒の割合も高く，小学部から中学部への滑らかなつながりは，中1ギャップの緩和に大いに役立っている。また，学習面においても，乗り入れ授業により中学部教員が教科の系統性・一貫性を理解して指導できる効果は大きい。今後は小中学校での重複した内容を精選し，9年間の効果的な学びを展開することにより，学習の質を高めていく必要があると考える。

### 4. 今後の取組

- 全中学校区で小中一貫教育の充実を図る
  - ・小中一貫教育校でのこれまでの優れた教育的資産を活用し，共通する学校教育目標の設定，9年間を見通したカリキュラムの編成，児童生徒及び教職員の積極的な交流，小中合同の学校行事の開催，学校評価項目の共通化などの取組を，他の中学校区にも周知し，小中一貫教育のさらなる推進をしていく。